

未来の学習者に寄り添う、ウィズコロナ時代の図書館

ラーナー・セントリックな視点から向き合う大学および公共図書館の可能性

視聴はこちら >>> <https://youtu.be/cEhrzkf0jic>

0:02:15 — 本日の主旨

- 「ウィズコロナ」が常態化した未来に暮らす学習者の視点から図書館の今後の在り方を考える
- 「学習者は必ず特定の地域に暮らすローカルな存在である」ことを前提に、館種を超えた学習環境の構築について議論を深める

0:09:00 — ウィズコロナから考える未来の学び
— コロナ禍での新しい学びの取り組み —



村松 浩幸 氏

信州大学 学術研究院教育学系教授
信州大学 教育学部附属次世代型学び研究開発センター長 ほか

0:11:00 — コロナが変えた新しい学び

0:17:30 — コロナは思考リセットの機会

- 大学の高等教育機関としての存在意義とはなにか？
- 図書館の存在意義は何か？

0:18:20 — 情報時代の学びの変容と、創造的な学び

- 情報時代の学びの特徴
- クリエイティブラーニング スパイラル
- 責任の移行への指導の枠組み(学習者主体の学びへの変革)

0:33:50 — 未来の図書館への問い

- 図書館は自立した学びを支援できるのか？
- 創造的なまなびは図書館でできないのか？
- 新しい図書館は智を生み出す場所になれるのか？

0:49:10 — 未来の学習者に寄り添うウィズコロナ時代の
図書館を考える—信州大学附属図書館の取組—



渡邊 匡一 氏

信州大学 副学長(学術情報担当)、
信州大学 附属図書館長、信州大学 大学史資料センター長

0:53:45 — コロナ禍での図書館利用の推移

- 2020年4月から11月までの利用制限の推移

0:56:30 — コロナ禍での図書館利用制限での対応

- 利用者と職員の安全確保
- 利用者に資料を届けるための工夫
- 電子情報の活用

1:06:50 — 信州大学附属図書館の取組

- 現在の対策: どうやって情報を共有し循環させられるか
- 未来(Society5.0)を見据えた対策

1:30:00 — 未来の学習者に寄り添うウィズコロナ時代の
図書館を考える—県立長野図書館の取組—



森 いづみ 氏

県立長野図書館長

1:33:30 — 学習者中心の図書館のあり方とは

- 一人一人のライフステージで情報リテラシーを身につけられる場
- 複線型、多段階の働き・学びの支援ができる公共図書館のありかたとは
- 学習者を中心に考えた、館種を越えた関係プレーが必要

1:38:00 — 長野県の公共図書館事情とコロナ禍で見えてきたこと

- 図書館の設置や紙媒体の流通だけでは情報格差が解消できない
- 従来型のサービスに限界

1:42:50 — 長野県eLibrary構想

- 図書館機能のデジタル化
- 学びのネットワーク化

1:58:00 — 問いかけ

- デジタル化を進めた先に、私たちが目指す世界は？
- 未来の学習者に、私たちが示せる価値は？

2:10:30 — ディスカッション

- 大学や教育現場で知の独占ができなくなっている今、運営する側のマインドセットの変化が必要？
- 公共図書館の役割は？最新の知が生まれる現場とつながり、インデックスをつくること、ハブになること？
- 現在の研究は大衆化している。大学図書館も大衆化に応え、大学の教育・研究だけでなく、大学に所属していない層にも提供が必要では？